

（午前10時45分 再開）

○議長（井上勝彦君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番17、10番 妙中君。

〔10番（妙中嘉三君）登壇〕

○10番（妙中嘉三君）最後になりました。つたない質問になりますけども、ご勘弁願います。

それでは、一般質問を始めます。

都市計画道路西之島伏原線の早期事業着手について。高野口町伏原、名古屋、名倉、大野の市街地を東西に縦貫するよう計画された都市計画道路西之島伏原線は、密集地における通行不便を解消、地震・火災等の災害避難、新たなまちづくりなどの上からも極めて重要かつ緊急性のある幹線道路計画であります。

そのため、旧高野口町時代では、当計画道路実現に向けて、まず、この道路の進入路として南北幹線道路伏原田原線、大野下中線の一部を完成させ、続いて西之島伏原線の事業を進めていくと聞いておりました。

しかしながら、その後、進入路としての南北2路線は完成したものの、肝心の西之島伏原線は一向に事業が着工されていません。それどころか、さして必要もない伏原田原線の奥地への事業を進めており、本事業の着工を長年期待してきた関係住民から、行政への強い不信、憤りが出ています。とりわけ、最近では、計画地周辺の宅地計画など、新たなまちづくりへの展望もある中で、この道路計画は大いに高まりつつあります。ついては、本道路計画の早期事業着手を願い、当局の考え、今後の計画などをお示しください。

1. 旧高野口町と旧橋本市の行政格差が叫ばれています。ごみ処理場、斎場のような迷惑施設は旧高野口町へ、もう迷惑施設がなくなった旧橋本市には保健福祉センター、恋野地区の開発などが行われている中で、なぜ旧高野口町の重要な都市計画道路すらしないのですか。

2. 必要もない多額の工事費のかかる伏原田原線の奥の事業は中止し、住民から強い要望もあり、必要不可欠の西之島伏原線の事業になぜ着手しないのですか。

3. 重要道路としての計画を見越して、何十年も前に既に用地を買収しているところがあります。その状況、経過を聞かせてください。

4. 本路線が完成した場合、経済効果、また今後のまちづくりなどにおけるあり方を、当局は考えたことがありますか。具体的に示してください。

これらを順番にお答えしていただきたいと思います。当局には、本当に辛口の意見をこれから述べさせていただきます。このまま高野口、埋没してつぶされてしまうような気がしますので、皆さんにお配りした地図も見ながら、私、向こうからもう一度質問します。

以上です。

○議長（井上勝彦君）10番 妙中君の西之島伏原線の早期事業着手に関する質問に対する答弁を求めます。

建設部長。

〔建設部長（松浦広之君）登壇〕

○建設部長（松浦広之君）都市計画道路西之島伏原線の早期事業着手についてお答えします。

1点目につきまして、現在、本市が事業主体となって実施している都市計画道路の新設事業は、伏原田原線のほかは土地区画整理事業と一体的に進めていますもののみで、それ以外は国、県により施工中の路線、あるいは休止や見直しを検討している路線であり、議員ご指摘の西之島伏原線だけが未着手というわけではありません。

次に、2点目につきましてですが、都市計画道路伏原田原線は、国道24号と京奈和自動車道側道を結ぶ重要な道路であり、平成5年度に着手し、国道24号から市道高野口4号線の間、約780mについては、既に旧高野口町の人に供用を開始しているところです。現在は、合併時に継続事業として新市が引き継いだ市道高野口4号線から京奈和自動車道側道間の約340mについて事業を行っています。

京奈和自動車道側道から北への高野口2号線の区間については、今後も事業化の予定はなく、都市計画道路の見直し対象と考えています。

次に、3点目につきまして、都市計画道路西之島伏原線予定地上の用地としては、市道高野口18号線の東に隣接する用地、約1,300㎡があり、昭和49年7月に取得をしています。詳しい経過はわかりませんが、将来の事業化を見込んで先行買収したと考えられます。取得用地の延長は約110mで、全体延長約2,200mの5%に相当します。

次に、4点目につきまして、本路線による効果ですが、仮に現計画法線どおり施行するとしますと、延長が約2,200mで、その区間の多くが家屋密集地域であることから、一定の防災上の効果はあるものと考えます。しかし、家屋密集地域であるがため、相当数の建物の移転が必要となり、平成19年12月議会の一般質問においても答弁させていただいていますが、平成10年の旧町における高野口町道路整

備プログラムで、本路線の総事業費が118億円と試算されているところからも、現実的には実施は非常に困難と考えます。

しかしながら、先行的に取得した用地につきましては、利活用等、今後の課題とさせていただきます。

○議長（井上勝彦君）10番 妙中君、再質問ありますか。

10番 妙中君。

○10番（妙中嘉三君）ありがとうございます。僕はお礼を言います。

地図、皆さんのお手元に配ってあるんですけども、全用地の5%しか用地を買収していないということなんですけども、まず、私が質問した1番目から質問させていただきます。

大変なこれは、僕は行政格差だと今でも思っております。なぜならば、例を出させていただきますと、まず恋野地区の開発ですね。恋野地区の開発などは、市長が市長になられてから、平成17年ですね、去年までに毎年のように約500万円ぐらいのお金を、ずっとつぎ込んでおります。合計にすれば、私の積算では4,000万円ほど毎年補助しております。そんなお金を使うのであれば、なぜ、この高野口の都市計画、一部だけでも開通させる努力をしないんですか。この付近住民は、土地を買収してほうりっ放しにされていて、夏は草は生えっ放し、刈る人もおりません。僕はもう何回か行政にお願いして、草を刈っていただいております。ただ、恋野へは毎年のように500万円、600万円というお金をつぎ込みながら、そんなお金を、ここは人口密集地ですよ。恋野、してあげるの僕は反対ではないんですけども、この事業の順番を間違わんようにしてほしいと思うんです。なぜ、この高野口の、この伏原の空き地を利用して、わずか100mほど残っております。この区間でも道路をつくる気はないんですか。この辺をいっぺん、

建設部長でも、市長でも、副市長でも聞かせてください。高野口、大変不便しているんです。理事でも結構ですよ。

○議長（井上勝彦君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）まず、先行的に用地買収しております土地につきましては、管理が十分でないところから、近隣の方にもご迷惑等をおかけしておりますことを十分認識しております。そういったところで、ご指摘があつてから動いているというところも事実なんですけども、管理につきましては、いろいろ手も加えてやっていく方向で今検討しておりますので、どうぞもう少し見守っていただきたいと思ひます。

なお、先行買収しました用地につきましては、延長で申しますと約110m、もともと非常に東西に細長い農地を買収しましたものですから、ほぼ道の形状に近いような形で用地が存在しております。そういったところから、議員ご指摘のように、この場所を通っていかないと奥の農地等への耕作地にも行けないという実情もござひますので、この用地につきましては、やはり利活用については考えていく必要があるなというふうに考えておりますが、道路として整備するには、一応転回所ありますとか、そういった諸要件も必要になりますので、この用地の利活用については今後の課題として、できれば今一歩踏み出した形で、少し手を入れたいなというふうには考えております。

○議長（井上勝彦君）10番 妙中君。

○10番（妙中嘉三君）そう言われると思つて、僕はそれなりに調べてきております。これは都市計画道路として、全線は開通できなくても、今部長がおっしゃるような遊休地にしてありますね。橋本市の土地として。ほいで、その向こうが、スーパー松源ができてます。私ども、一番これ、高野口の人口密集地の人

たちは、ここへ道路がつけばどれくらい便利かというのを願つております。しかしながら本橋本市は、未開発の、人も住んでない場所ばかりへ力を入れて、ここをほうりっ放しにしておる。いつまでをほうりっ放しにするかと、その辺も聞きたいんです。

ただ、僕はこの地権者にも聞いてきました。3軒あります。買うてくれるんやったらいつでも話しますというお話でした。そんな話、橋本市したことありますか。これ、わずかですよ。約七、八十mです。この道路がついたら、高野口の名古曾、名倉、浦之段、この人たちは、このスーパー松源に行く道路へものすごい近くになつて、大変便利になります。交通も安全です。この道路をつける気にはなりませんか。何とか考えて、この道路でも買収、遊休地をそのままにしておくのであれば、僕、きのうも見てきました。地権者とも話してきました。地権者は話すと言つてるんですよ。それ以外のところやったら、未開発のところ、どんどん開発したり、お金をつぎ込んだりするんであれば、人が住んでいるところを先にしないというのが、僕はどうも解せんのです。その辺を聞かせてほしい。回答してください。部長はいいですわ。執行部から聞きたいわ。

○議長（井上勝彦君）副市長。

○副市長（清原雅代君）今後の問題は別として、なぜ、これまでそれに着手してこなかったかという点について、私のほうからちょっと述べさせていただきたいと思ひます。

そもそも、旧高野口町と旧橋本市の合併時の取り組む主要なプロジェクト事業というのを、それぞれの市・町でいろんな計画のある事業を出しました。旧橋本市の場合は110ほどと、旧高野口町の場合は八十いくつあつたと思うんですけれども、それらの事業の中から、本当に継続事業として、継続してもらい

たい事業、合併を契機にやっっていこうという、やってもらいたい事業とか、両市・町として共通の課題の事業であるとか、いろんな分類、8段階ぐらいに分類をしたと思います。

その中から、総事業費ベースで300億円ほどの事業を抽出するというので、200ほどの両市・町から出てきた事業が、合計しましたら900億円ございました。その中から300億円に、本当に必要な事業を絞り込む作業をしました。その中で、今ご指摘の、いわゆる都市計画道路につきましては、8段階あるうちの旧高野口町が仕分けた段階のレベルでは下から2番目。1番下と下から2番目の事業費を足しましたら、400億円ほどでございます。それを除いても500億円の中から、さらに200億円を削るという、いろんな作業をしまして、最終的に議員の皆さま方にも、想定される事業として示させていただいたという経過がございます。

昭和49年7月ですか、その時点で用地を取得されて、旧高野口町も、なかなか総事業費からして手をつけられなかった事業ということで、都市計画道路としての着手というのは、こういう合併のときの経緯からいたしましても、一方、伏原田原線については、これは継続事業としてやり遂げてもらいたいという、非常に優先順位の高い事業でございましたので、そのほうは今日まで継続して取り組んできておりますけれども、この事業に着手をしなかったというのは、そういった経過がございますので、ご理解をお願いしたいと思います。

○議長（井上勝彦君）10番 妙中君。

○10番（妙中嘉三君）優先順位をつけて、南北の道路を先につけたということですけど、東西の線は旧高野口町が残してきた課題やから、ほうっておくということなんですか。そんな理不尽な話ないで。

○議長（井上勝彦君）副市長。

○副市長（清原雅代君）ほうっておくというのではなくて、10年間の間にどういった事業をやっていくかという中では、非常にランク付けからしたら、まだほかに優先順位のある事業でも、できてない事業がたくさんあるということでございます。

○議長（井上勝彦君）10番 妙中君。

○10番（妙中嘉三君）考え直してもらおうわけにはいかんのですか。この道路の西側を見てくださいよ。今つけた南北の道路と、東西の道路、もしついた場合に、どれほどの人が利用できるかということを考えてみたことありますか。やっぱり私は高野口に住んでいるから、このくらい旧橋本市と旧高野口町との差をつけられると、納得いかんのですよ。斎場にしてもそうです。斎場にしても、例を挙げれば、高野口、今回も迷惑施設ということで、約1億いくらのお金をつけていただけてますけども、旧恋野には4億円強のお金がついておるでしょう。ほいでまあ、それこそ毎年のように500万円、600万円と、それは必要で補助をしているんだと思いますけども、このわずか100mぐらいの道路の用地を買収して、この道路だけでもつけるわけにはいかんのですか。ぜひつけたってほしいと思うんですが。住民のどいらい切なる願いなんです。ほいで、それでも、つけなくてもほうっておくんだったら、せめて整備したってほしいんですよ。言わな草も刈らんとほうっておくんですよ。人間住んでるんですよ。恋野のあの似賀尾の池まで水道つけるっていうて1億何ぼかけるって言うておるけど、あそこは人間住んでないんですよ。今開発しておるところも人間住んでないんですよ。高野口のここは、人間住んでるんですよ。優先順位を間違うとると違うんですか。そないっぺん、もう一回返事ください。つけるという気にはならん

のですか。

○議長（井上勝彦君）市長。

○市長（木下善之君）大変難しいお話でございますもんですが、一応、恋野地区のことについて相当矢を向けてますので、私から申し上げたいと思います。

地域格差の問題が大きな問題になっておるんですけども、私の記憶では、恋野地区へは毎年四、五百万円、今で3,500万円ほど投資した事実がございます。これは、何といたしましても30ha以上の補助整備事業がやったわけございまして、補助整備事業が終わって、その後、水路の改修とか、特に池ですね。恋野は池が多いので池の改修、これに国の補助をいただいて、県も出していただいて、そして市も負担しておると。それで、都合によっては二つか三つの池については、市も財政負担がかなわんよということで、市のかわりに地元が、地元負担分のところへ市の負担部分を抱き合わせてやっておるとというのが現状でございます。

そういうことで、これは補助整備の大きな事業であったので、もうほとんど改修する、終わるといことになるわけでございますので、その点のご理解をいただきたいと思ます。

そしてまた、高野口の、この西之島伏原線の問題でございますけども、私としましては、地図もよくわかるし、現場もほぼ知っておるわけでございますけれども、相当やはりまちの密集地域ということは承知しております。しかし、なかなか家をまた買収をしてやるということは、相当な経費と時間が要するというようなこと等もございしますもんですから、やはり既に買収した松源の西のほうですが、買収したあの地域等については、市道から市道、市道から県道とか、そういうところまでを部分的にやはり改修をやっていくと。そう

いう考え方を持って、全線やるということは、これは都市計画道路の見直しをしなければ無理やなと私は判断しておるわけでございますので、あの周辺についてはできるだけ、優先順位がございしますけれども、十分なご意見でございますので、一応検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（井上勝彦君）10番 妙中君。

○10番（妙中嘉三君）さすが市長ですね。僕は全線開通させと言うておると違うんです。もう市長が今おっしゃるように、買収するには大変なお金がかかると。僕は聞いているのは約70mぐらいです。直線にしてね。ほいで、その地権者というのは3軒ほどあるんです。3軒の人らは、全部話してもええというような話も聞いております。できるだけお金のない中、高野口のために、僕は相当悲哀をなめておると思うんです。

ほいで、恋野を僕は中傷誹謗しておると違うんですよ。以前にも、議長にもしかられたことあるんです。ある忘年会の席で。僕は恋野のある偉いさんと名刺交換しようと思ったら、議長が、「こら、妙中。お前、余計なこと言うたらあけんのやぞ。」と、そない言われましてね。そのときから、これは恋野と何ぞ関係あるのかいなと思い出して、ずっと調べてみたら、それは出るわ出るわ、毎年のように500万円ずつ。まあ、市長おっしゃるように理由はありますよ。毎年500万円ずつ渡したり。ほいで、それこそ似賀尾池の上まで水道引こうとか。そういう、どいらいすし食べ、もち食べだのサービスしておるみたいで。何か特別のかかわりあるんかいな。当局とかかわりあるんかいな、市長とかかわりあるんかいなと、議長とかかわりあるんかいなと、そんな僕は疑心暗鬼にとらわれていた中です。

今、市長からいい回答いただきました。ま

あ、わずかですけども、わずか七、八十mやと思うんです。あれもよう検討していただいて、ほうりっ放しにしておる市有地をそのままにするんだったら、あそこへ道路つけてあげたら、松源に買いに行くのは高野口の住民は大変喜ぶと思います。ぜひ検討して、近いうちに実行していただきたいと思います。

私の質問は終わります。ありがとうございました。

○議長（井上勝彦君）10番 妙中君の一般質問は終わりました。

---

○議長（井上勝彦君）これにて、一般質問を終結いたします。

以上で本日の日程は終わりました。

本日はこれにて散会いたします。

皆さん、苦勞さんでございました。

（午前11時12分 散会）